若手の女流義太夫演奏家を育成し、古典芸能の人気回復と伝承を図る。

社団法人 義太夫協会では「女流義太夫」の発展のためにさまざまな施策を行っている。しかし、他の古典芸能同様、今は継承者の育成も難しい時代になってきた。若手育成の中心が「女流義太夫演奏会」だ。

明治時代、アイドル的な存在だった女流義太夫。

「女流義太夫」と聞いて、ぴんとくる人はあまり多くないだろう。義太夫節は三味線を伴奏として、物語を語る声楽で、常磐津節、清元節などと同じ浄瑠璃の一派である。

義太夫の調べに、操り人形が加わると、「人形浄瑠璃【文楽】」となる。人形がつかずに行われる演奏は「素浄瑠璃」とも呼ばれる。

「女流義太夫」は女性の技芸員によって演じられるもので、かつては民衆芸能の花形であった。江戸時代は女性の芸人が禁止されたためすたれたものの、明治になると法的に認められるようになり、一挙に人気が沸騰。歌舞伎と並び花形芸能となった。「女流義太夫」は今のアイドルのような存在となり、早稲田や慶応などの大学生たちが夢中で追いかけたのである。

しかしながら、今では他の古典芸能同様、観客も減り、継承者も少なくなってしまった。

社団法人 義太夫協会は、義太夫節の向上発展、および普及をはかることを目的として設立された。明治30年発足の「東京因講」に起源をもつ歴史ある団体である。

現在の協会会員は、女性54名（女流義太夫24名、三味線30名）と男性27名（歌舞伎竹本23名、その他4名）の計81名である。

同協会会長の波多一索さんは

「義太夫節は古典芸能の中でも特に習得が難しいと言われ、熱心な方ではないと続きません。また、演奏会も減っておりますので、経済的な安定を考えると難しい面もあるのです」

ひと昔前なら三味線は女性の作法の一つであり、お稽古教室を開くことで収入をあげることもできたが、今はそれもままならない。しかしながら、義太夫節は国の無形文化財でもある。同協会では、さまざまなアプローチを用いて、義太夫節の普及と保存・継承に力を注いでいるところである。

女流義太夫演奏会

女流義太夫演奏会のチラシ

古典芸能とはいっても、テーマは現代のドラマと変わらない。

同協会の取り組みの中で中心となるのは、毎月1回、国立演芸場で行われる「女流義太夫演奏会」である。その舞台を覗いてみると、揃いの肩衣と袴を身につけた大夫や三味線が並び、張り詰めた緊張感にあふれている。会の出演者にはベテランもいるが、若い女流義太夫の姿も目立つ。

義太夫節に使用する三味線は太棹で、低音がよく響くのが特長だ。語りはリズミカルで、三味線との相性が素晴らしい。当日の出し物は、「菅原伝授手習鑑（すがわらでんじゅ てならいかがみ）」「妹背山女庭訓（いもせやまおんなていきん）」などの素浄瑠璃である。文字面だけみると堅くみえるが、純愛もの、駆け落ち、親子の生き別れ、失脚、二股、嫁姑の確執など、テーマは最近のドラマと変わらない。

「台詞はわかりにくいと思いますが、音楽的な部分だけでもいやしの効果もあります。喧騒な日常のストレスを解消するのにもいいというお客様もいらっしゃいます」と波多さんは語る。

語りはリズミカルで三味線との相性が素晴らしい

演奏会には若い男性や外国人の観客が増えている

協会では時流にあわせて、若手の女流義太夫だけを使ったチラシを作るなどの工夫もして観客の増員を図っている。

また、裾野を広げるための施策として、「義太夫・三味線1日体験教室」もある。道具がなくても参加でき、語りコース、三味線コースを選んで受講する。これで興味をもった方には、毎週土曜日に東京赤坂豊川稲荷文化会館で行われる「義太夫教室」が用意されている。約2時間、講義と実技を学ぶ初心者向けの教室だ。年齢、性別も問わないので、気軽に入会できる。先の若手の義太夫たちもこの教室の卒業生たちだ。中には結婚後や出産後に義太夫節に挑戦する方もいる。

「若手たちも本当に熱心に取り組んでおりますので、わずかながらですが義太夫に興味をもってくださる方も増えているのです。この機を逃さず、今後もより多くの人と義太夫との接点を拡大し、今に通じる部分をアピールしていきたい」と波多さん。

今は古典芸能と呼ばれるものも、全盛期はもっともポピュラーな娯楽であった。とすれば、伝統の技を残しつつも、現代のニーズを取り入れた演出などが必要になってきているのかもしれない。

担当者より

皆様にも義太夫のすばらしさを知っていただきたい。

社団法人 義太夫協会
会長
波多一索さん

義太夫節には堅苦しいことはひとつもありません。聴く人が自由に、自分なりの面白さを感じていただければよいのです。今回の助成に深く感謝申し上げますとともに、機会がありましたら、女流義太夫たちの活躍もご覧いただきたくお願い申し上げます。